



十津川村立十津川中学校 学校だより 1月

令和6年1月22日
文責 前木伸一

画竜点睛 (がりょうてんせい) ～ 締めくくりを大切に ～

令和6年、そして令和5年度3学期が始まったと思っています、もう1月も後半に入りました。2学期終業式は体調不良者が多く、少々寂しい式となりましたが、3学期始業式はほとんどの生徒が元気に登校し、良いスタートが切れたと嬉しく思っています。

さて、始業式でもお話ししましたが、3学期は今年度の締めくくりの学期です。「画竜点睛」は、竜の絵を描いて睛（瞳）を描き入れる事により、最後に大切なところに手を加えて、総仕上げをする。完成させる事の大切さを表す言葉です。自分にとっての「竜の睛（瞳）」に当たる部分はどこかを考えながら、今年度をしっかり振り返り、来年度に向けどんな目標と計画を立て取り組んでいくかをしっかり考えましょう。そしてこれまで以上に瞳を輝かせ、日々の授業や生活を丁寧に積み重ねながら、残りの日々を大切に過ごしてください。



～ 制服について～

「制服の改正」について、先日の全校集会で生徒の皆さんに説明し、保護者の皆さまには文書でお伝えさせていただきました。ここで、現在本校生徒が着用している制服の歴史を簡単に紹介します。

○制服A（現在男子が着用している制服）・・・「詰め襟」、「学ラン」と呼ばれている制服が着用され始めたのは明治時代。最も早かったのは、3年生が修学旅行で集合写真を撮ったクラーク博士の勤務した札幌農学校という説もあります。約150年の歴史です。

○制服B（現在女子が着用している制服）・・・本校の前身である村内4校が開校した当時の写真を見ると、現在の制服と同じでした。約60年の歴史です。

制服A・B共に長い歴史があります。保護者の皆さまはもちろん、祖父母の皆さまにも着用された方がおられるのではないのでしょうか。「60～150年前から同じ制服」と聞けば、「古い」と否定的な意見を持つ人もいるかと思えます。しかしながら、長期にわたりそれぞれの時代で認められてきた制服であり、今後急激に変化するといわれる社会においても、長く受け入れられる力を持つ制服であると捉えることもできます。生徒の皆さんには、今後検討を始める「制服C」を含め、現在の制服を大切に愛着を持って着用してほしいです。



保護者の皆さま

1月3日、住民ホールで「二十歳を祝う会」が開催されました。立派に成長した本校卒業生16名を祝福しながら、現在の生徒たちの「逞しく頼もしく成長した姿」を想像しました。本年も保護者・地域の皆様にご理解とご協力をいただきながら、生徒の成長の為、精一杯取り組んで参ります。何卒宜しくお願い致します。